

今後の取組み

現況分析

平成26年度に本町の公共交通及び精華くるりんバスについての利用状況や収支に係る資料やこれまでにを行ったアンケート調査の結果などをもとに現況分析を行った。

- ◎地理的・社会的状況、施設などの状況
- ◎公共交通網の状況
- ◎道路の状況
- ◎住民意識及び移動の特性
- ◎その他

課題整理

平成26年度に現況分析を行った上で、本町の公共交通及び精華くるりんバスの課題整理を行った。

- ◎運行経路・所要時間に関する課題
- ◎運行時間帯に関する課題
- ◎収支に関する課題
- ◎その他



精華くるりんバスのあり方の検討(案)

- ◎精華くるりんバスは「かしのき苑循環バス」と「むくのきセンターシャトルバス」の施設バスを継承している。
- ◎既存の路線バスのサービスがない地区を中心に運行している。
- ◎利用者が少なく採算性が低い一方、高齢者や交通弱者の移動手段として重要な役割を持っている。
- ◎一定の財源負担が生じることは、精華くるりんバスの性質上、一定やむを得ない。
- ◎運行にあたっては毎年、一定の町負担が生じているものの、高齢者や交通弱者の移動手段としてその果たす役割は大きい。



※当面は現行の精華くるりんバスの運行形態を存続することを基本として、持続可能な運行を維持する方向で検討していく。

具体的な考え方(案)

(北ルート)

- ◎一方向のみで周回、往復のいずれかで大回りとなり、所要時間が長いいため、利用される施設が少なく、利用者が少ない状況。
- ◎今年度末に粕田駅東駅前広場の整備が完了する予定。
将来駅周辺に商業施設などの立地が見込まれる。



※粕田駅へのバスの誘導を基本とした走行ルートの見直しを行う。

(南ルート)

- ◎商業施設の立地も進み、路線バスルートも一定整備されている状況。



※精華くるりんバスから路線バスへの乗継(結節点)などの検討を行う。
路線バスを利用した周辺主要駅などへのアクセスの向上、更なる公共交通網の充実を図る。ルート・ダイヤの見直しを行い、公共公益施設への利便性の向上を図る。